

施設栽培ヒュウガナツの少核果実生産

谷岡英明

A Little Seed Fruit Production of Hyuganatsu(*C. tamurana Hort. ex Tanaka*)
in Protected Cultivation

Hideaki TANIOKA

要 約

ヒュウガナツの施設栽培において、施設をネットで被覆して受粉樹に‘西内小夏’を用い、媒介昆虫にミツバチやマルハナバチを利用し、普通日向夏および‘宿毛小夏’の少核果実生産の可能性を検討した。

1. ミツバチによる交配での着果率は、裏年で普通日向夏が 4.7%、‘宿毛小夏’が 5.8%、マルハナバチによる交配での着果率は、表年で普通日向夏が 3.0%、‘宿毛小夏’が 2.2%であった。
2. ミツバチおよびマルハナバチを用いた交配によるネット被覆条件下での 10a 当たり収量は、‘西内小夏’との混植割合を 1 : 1 とすると 3.5 ~ 4.9 t であった。
3. 果実重のバラツキは大きいですが、普通日向夏および‘宿毛小夏’での完全種子数は、1 粒以下であった。
4. 果実品質では、糖度計示度、クエン酸含量の差はみられないが、果汁歩合が高かった。

キーワード：ヒュウガナツ，少核果生産，施設栽培，西内小夏，媒介昆虫利用